



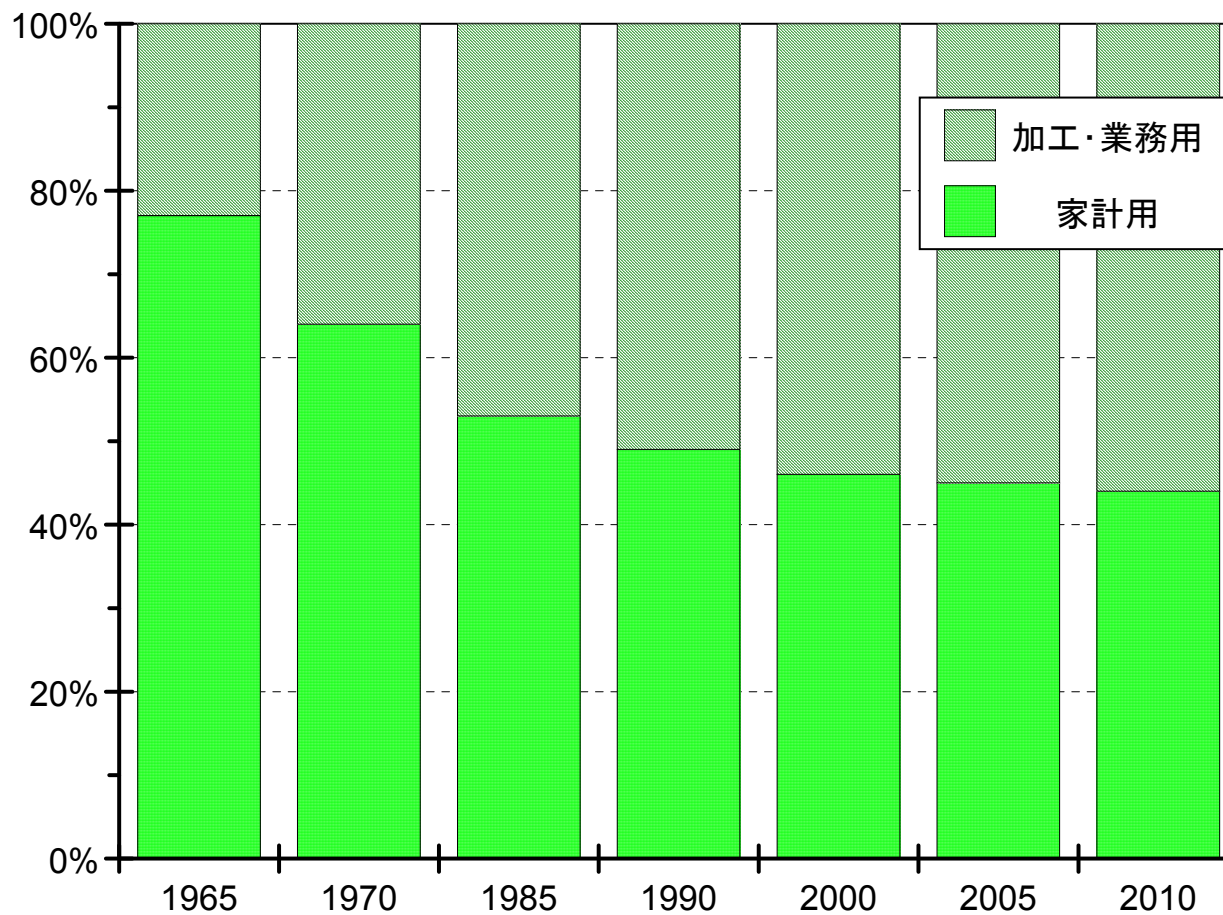
野菜ビジネスの健全性の確保

(株)食料マネジメントサポート

代表取締役

福田高志

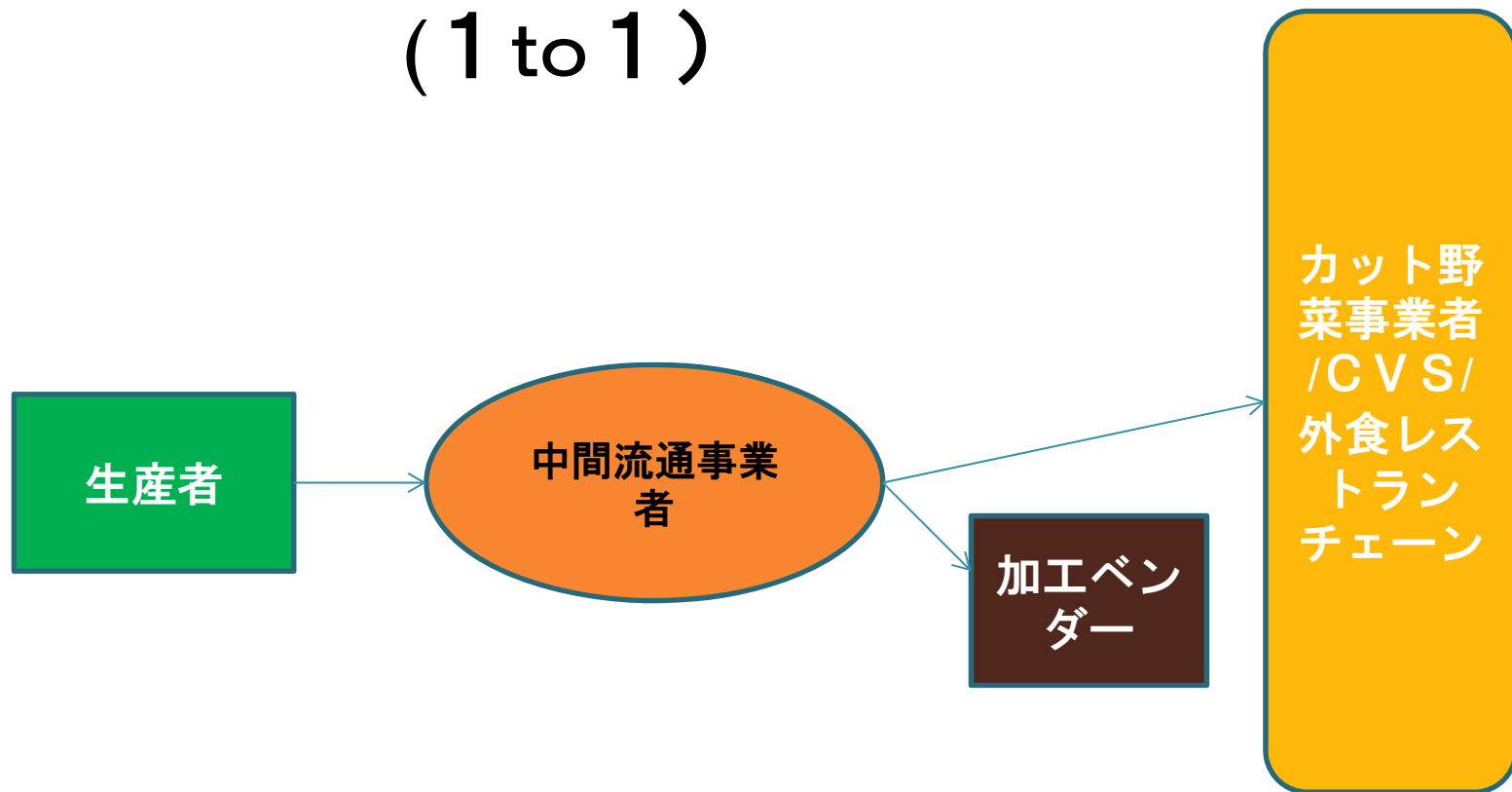
1. 野菜ビジネスの現状



資料：農林水産政策研究所

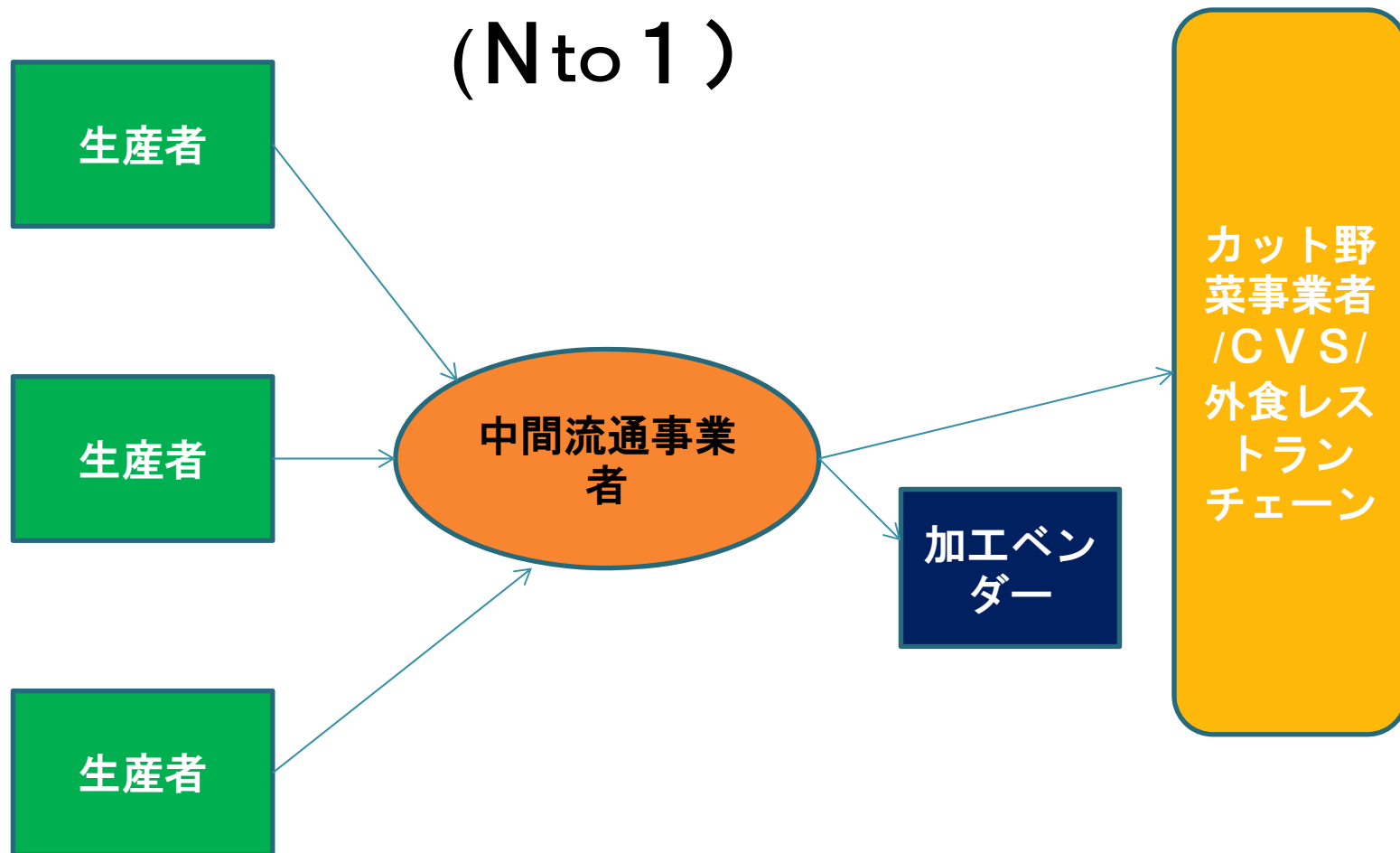
2. 野菜取引の経路－1

1. 生産から消費までの流れ (1 to 1)



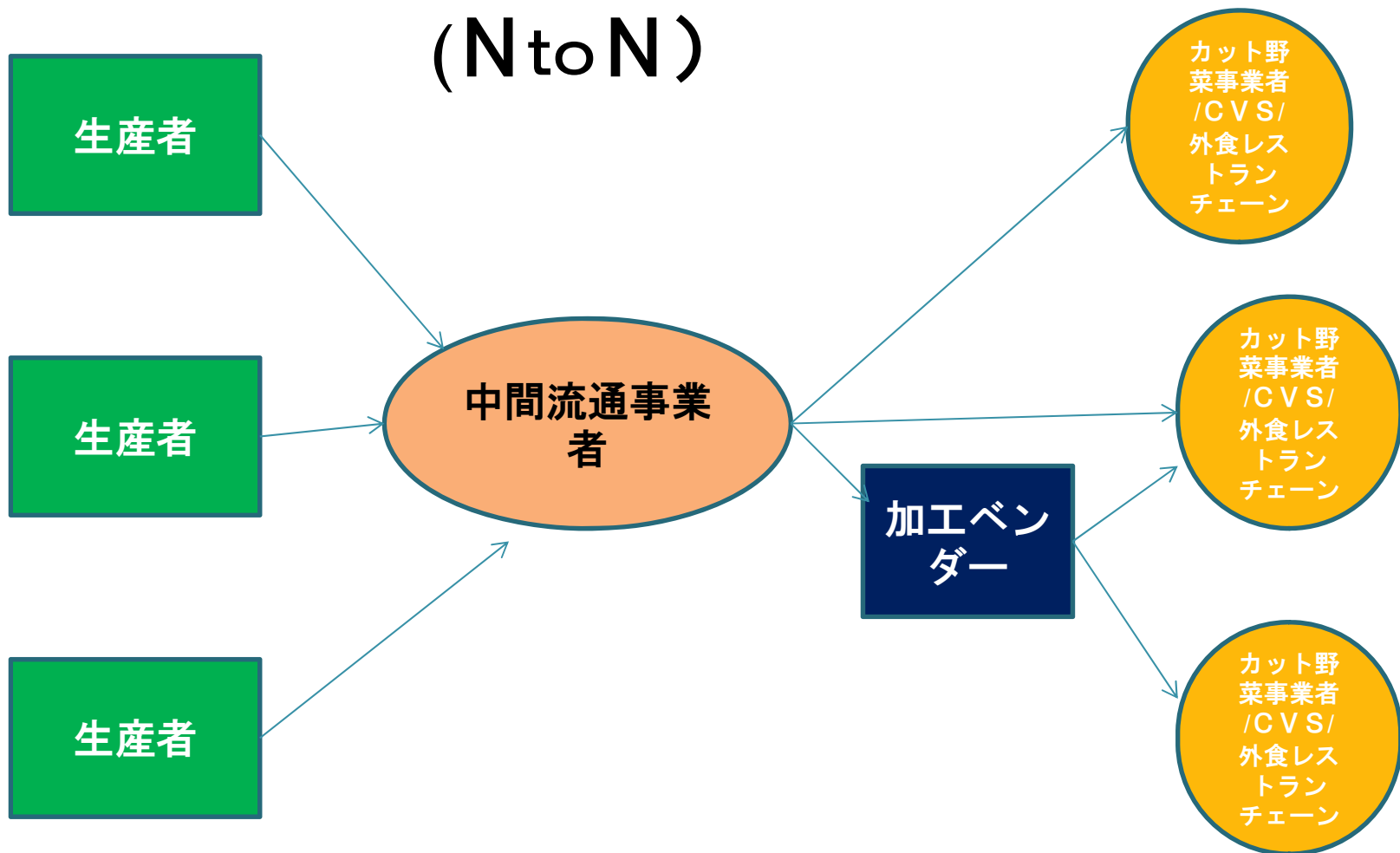
2. 野菜取引の経路－2

1. 生産から消費までの流れ (Nto1)



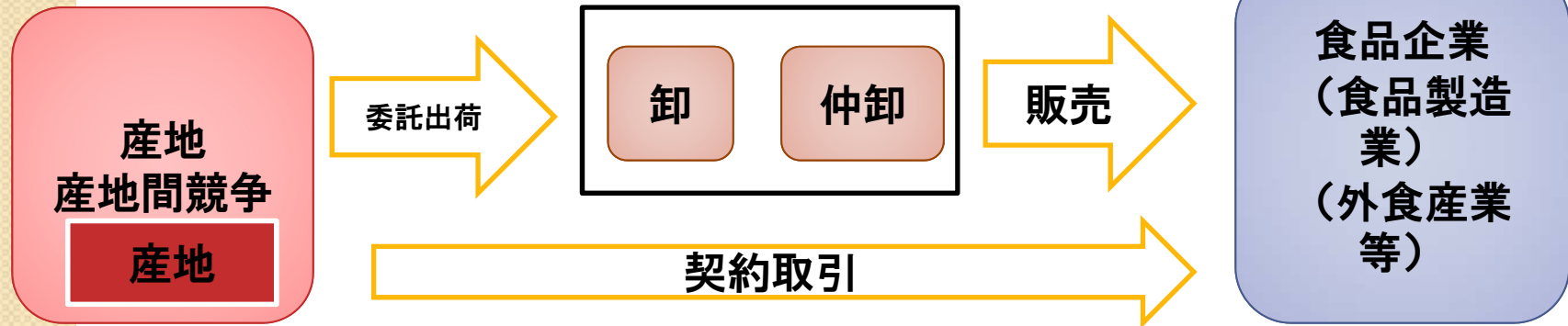
2. 野菜取引の経路ー 3

1. 生産から消費までの流れ (NtoN)



3. 中間事業者を介した契約に基づく安定供給体制の構築

< これまでの供給体制 >



問題点

- ・ 加工・業務用の生産体制になっていない (品種、コスト、品質)
- ・ 単独の産地では、必要な数量・品質などが供給できない

- ・ 定時、定量、定価格、定品の供給がない
- ・ 流通経路における一貫した品質管理がない

- ・ 消費者ニーズに対応した国産原料を安定的に供給できない
- ・ 国産原材料の特長を活かした商品開発、販路開発が遅れている

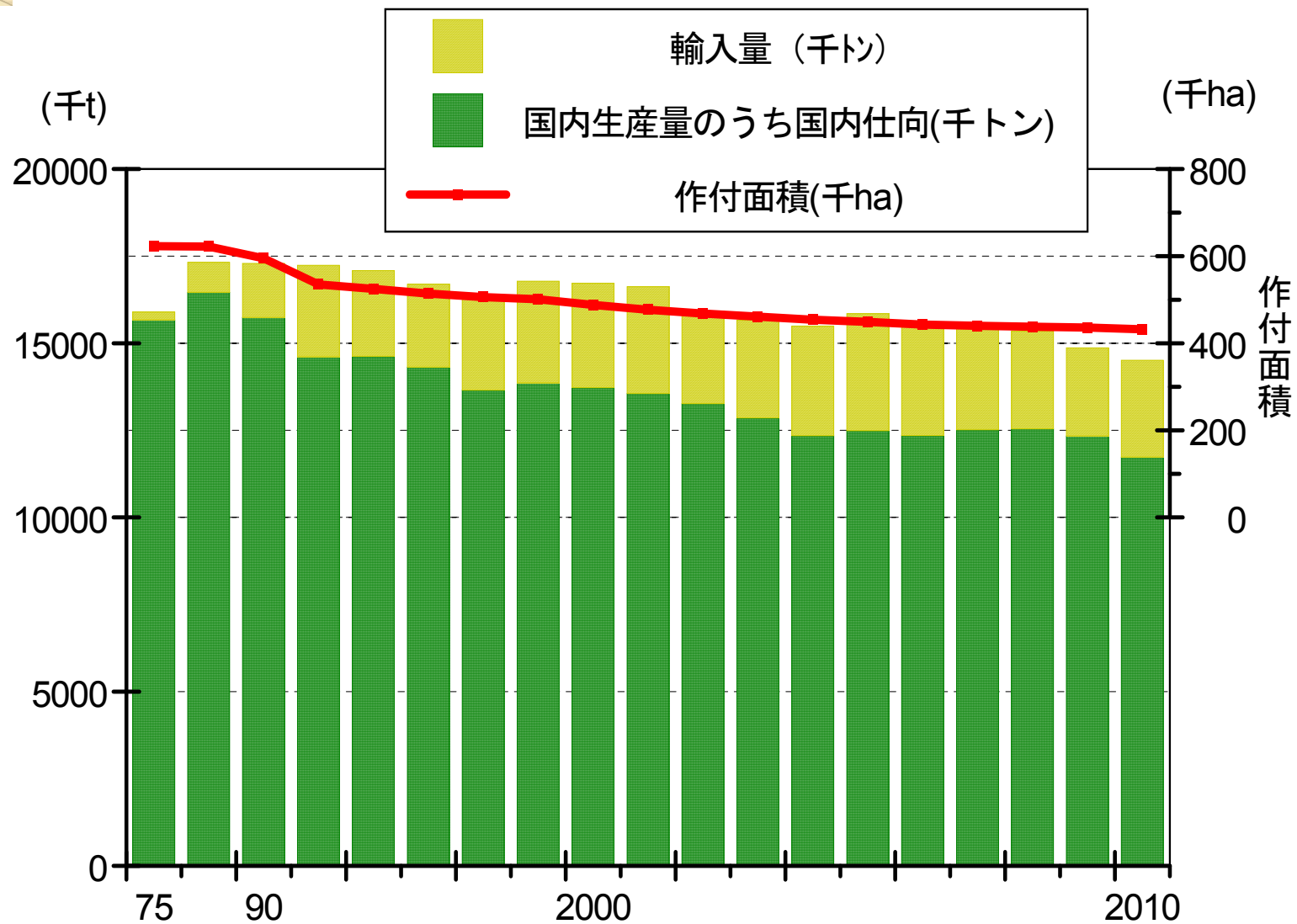
新たな取組み

- ・ 加工業務用品種の導入
- ・ 省力低コスト対策 (機械施設の導入)
- ・ トレサビリティの取組
- ・ 生産工程管理方式導入

- ・ 産地指導、育成
- ・ 産地間連携の推進
- ・ 適性品種の供給体制の整備
- ・ 実需ニーズ対応した1次加工
- ・ 安定出荷のための体制整備
- ・ 低コスト流通システムの導入
- ・ 衛生、品質管理の高度化
- ・ トレサビリティの取組

- ・ 消費者ニーズの把握
- ・ 衛生、品質管理の高度化 (HACCP対応)
- ・ トレサビリティの取組

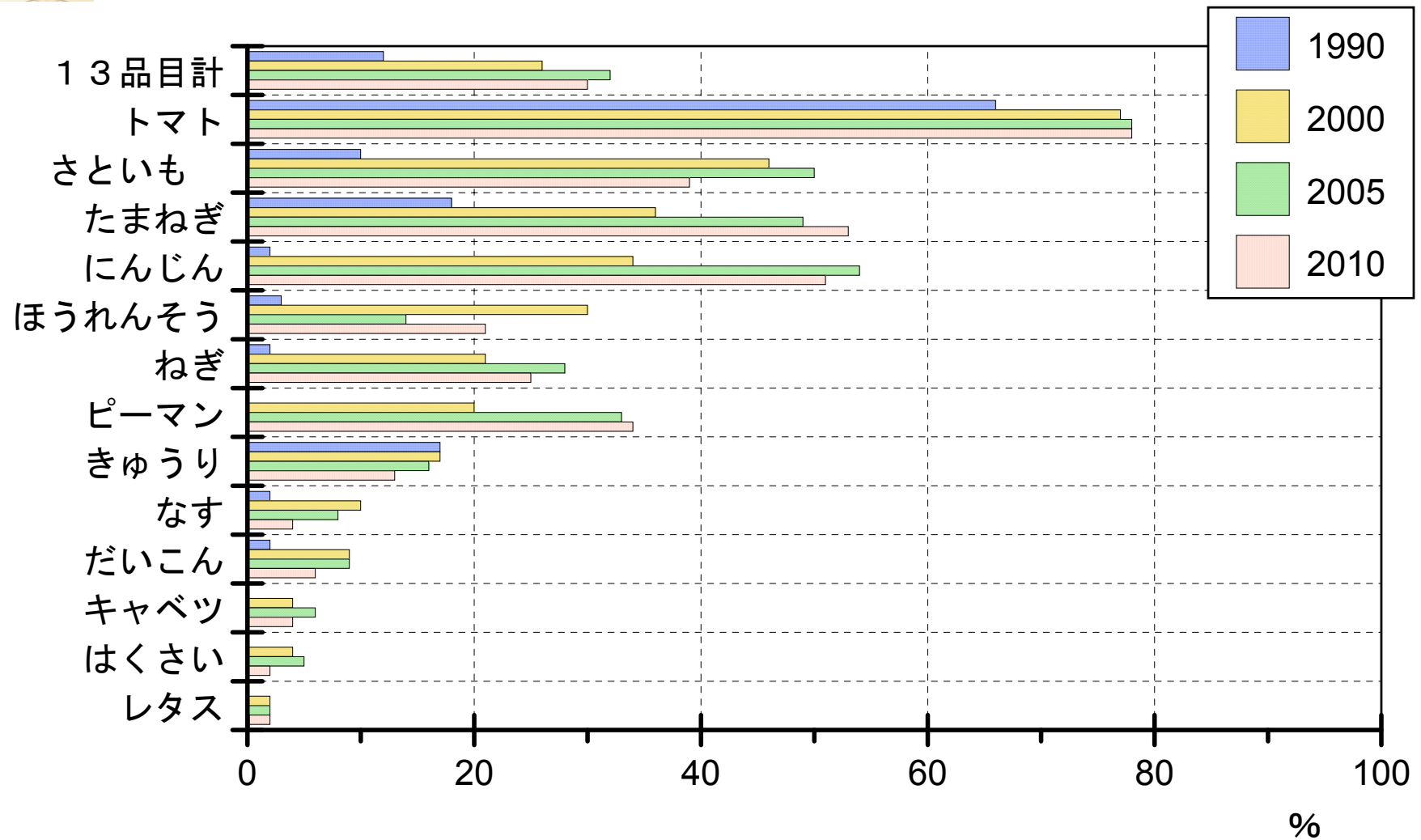
4. 野菜の国内生産と輸入の推移



資料：食料需給表(1975-2010)

年

加工・業務用野菜の輸入比率



冷凍ジャガイモは30万トン

資料：農林水産政策研究所

5. 契約で締結する重要事項

- 取引期間（いつから いつまで）
 - 取引数量 ⇒ 期間数量（期間の総量）
日量～週間～月間（選択/取決め）
 - 取引価格 ⇒ キロ単価
数量単価
 - 品質管理 ⇒ 品種の指定（固い種類、歩留まり…）
鮮度（収穫方法、保冷、容器…）
規格（大きさ、個体重量「何^キまで」）
 - 安全性 ⇒ 生産履歴等事項 適正農薬使用
有機JAS
減農薬（各県のエコ認証参照）
 - 引き渡し ⇒ 引き渡し場所
産地（圃場、集荷場）
中間事業者
プロセスセンター



6. 野菜ビジネスの安定性

1. 当初は市場からの調達

2. 産地契約での安定性確保へ

3. 契約取引のメリットとデメリット
供給過剰と不足の局面
仕入れ先の分散による問題
販売先との関係・産地への理解

7. リスク対応ー（1）通常時の工夫

1. 生産性上昇の工夫で利益を生み出せるか

①用途の拡大で使用サイズ・規格の広がり

⇒選果ロスの減少・規格外の利用率アップ

⇒栽培方法の変更による増収ー密植

⇒収穫方法の変更ー機械収穫へのシフト

7. リスク対応—（1）通常時の工夫

②包装・運搬容器の変更

⇒ 収穫容器の運搬利用でコスト削減

⇒ 容器のリサイクルで物流コスト軽減
⇔ 積載率を高められるか



③加工用栽培品種の導入による増収—大玉

加工向けの肥料・農薬使用—一味<収量

リスク対応ー（２）事前協議（起こる前）

2. リスク回避の方法の事前協議

①事前の在庫調整（鮮度）

②規格・価格の調整

契約外へ

③他産地へのシフト

④輸入品へのシフト

⑤代替品へのシフト

⑥他ルートへのシフト



リスク対応ー（3）実行時の点検

3. 納入条件の点検

- ①供給不足時のリスク対応ができる利益率か
- ②供給量の上限・下限の設定はあるか
- ③販売にマッチした仕入れ契約になっているか
全体のコントロールはできているか

リスク対応ー（４）問題発生後

4. 仕入先・販売先との協議

① 期間・損失の幅の協議はできるか

② 生産者へのヘッジはできるのか

③ 契約履行の不能通知はどの時点でするか

④ 担当に任せておける範囲の見極め



リスク対応ー（５）鎮静後の対応

- ①問題の大きさの把握
- ②防止策の点検——契約・産地・規格・価格設定など
- ③生産性向上による利益率改善の実行
- ④被った損失の処理協議



8. 現状の課題

1) 異常気象の頻発

不可抗力の判定

2) 産地分散メリットの消滅

どこも取れない

3) 小売業の理解不足

— 契約の精神を理解しない・できない

4) 納入業者の過当競争

9. 安定化に向けた提案

- 1) 供給不足事態への対応体制へ
 - ①供給義務契約の変更——標準契約の設定
 - ②買い手の理解と協力の取り込み
メニュー変更
代替品の受諾
 - ③輸入を含む供給増体制の整備
- 2) 輸入レタスの供給確保へ業界の共同購入
- 3) 制度のスムーズな導入
- a l i c 利用へ

10. その他の話題

1. 日本からの農産物輸出について

- 目標 1 兆円の現実
- 日本の生産の現場
- 競争力の判定

2. TPP参加について

- 野菜ビジネスへの影響
- 生産体系への影響
- 稲作の変革のチャンス

ご清聴ありがとうございました。

